

七尾 100 人女子会

第一回開催結果報告書

2019年1月

七尾 100 人女子会実行委員会

目 次

1. はじめに	
1-1. 開催趣旨と経緯	p.1
1-2. 参加者の幸福度	p.2
2. 七尾の魅力とは？	p.3
3. 目指すべき都市像	
3-1. 街づくりビジョンの方向性	p.4
3-2. 都市像を目指すために	p.6
4. 今後の展望	
4-1. 次回以降の参加希望形態	p.8
4-2. 全体的感想	p.9
5. まとめ	p.9

1. はじめに

1-1. 開催趣旨と経緯

(1) 開催趣旨

七尾市同様に、日本創生会議より消滅可能性都市と指摘された豊島区が、そこから脱却するための企画の一つとして、「としま100人女子会」を開催し、女性目線を活かした街づくりにつなげているという事例に倣い、今後の七尾市を支えていく世代の女性の想いを共有するための意見交換の場として、「100人女子会」を企画した。

(2) 経緯

当初期待した公的機関の主催、または共催による開催が不可能であったため、主催者として、有志による「100人女子会 in NANA O 実行委員会」を立ち上げ、企画、宣伝、運営にあたり、同委員会から依頼した多くの方から、協賛、後援、協力など、様々な形で支援が得られた結果、開催が実現した。

協賛	どんたく のと共栄信用金庫 お菓子処花月 うおぎし医院 ゆうの丘 さいだ花店 (株)赤苗商会 クリエイティブブランド (順不同)
協力	てみるフェス実行委員会
後援	七尾市 北國新聞社

(3) 実施要領

下記の要領で実施した。

- **開催日時**：2018年 12月 15日 14時～ 16時
- **開催場所**：矢田郷地区コミュニティーセンター 多目的ホール
- **参加人数**：101人

1-2. 参加者の幸福度

当日の参加者にアンケートにおいて「純粋幸福度」を聞いたところ、次の回答を得た。

注) 調査は5段階評価で、「5 とても幸せ 4 幸せ 3 幸せでも不幸でもない 2 不幸 1 とても不幸」としており、「5か4を選択した人の割合」から「2か1を選択した人の割合」を差し引いたものが純粋幸福度。

	回答数	割合 (%)
とても幸せ	31	37.8
幸せ	41	50.0
どちらでもない	9	11.0
不幸	0	0.0
とても不幸	1	1.2
合計	82	100.0

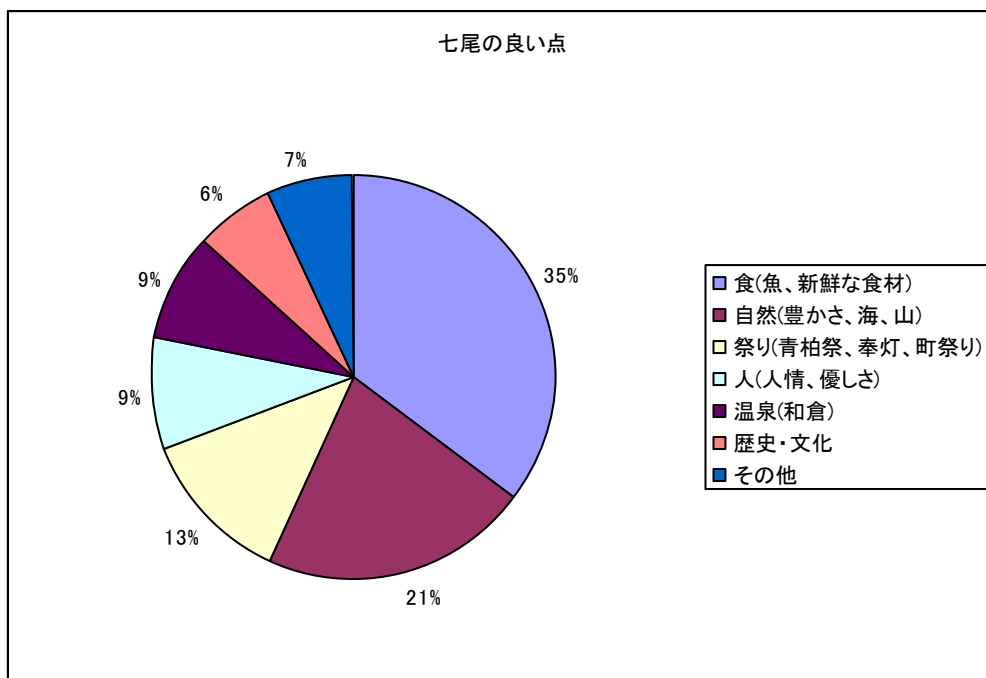
「世界幸福度調査」(米国の世論調査会社ギャラップ・インターナショナルとWINによる共同調査)の調査方法に従うと、今回の**参加者の純粋幸福度は87**で、2018年の世界ランキング2位コロンビアと同率の高さであった。

1位 フィジー (92) 2位 コロンビア (87) 3位 フィリピン (84) …

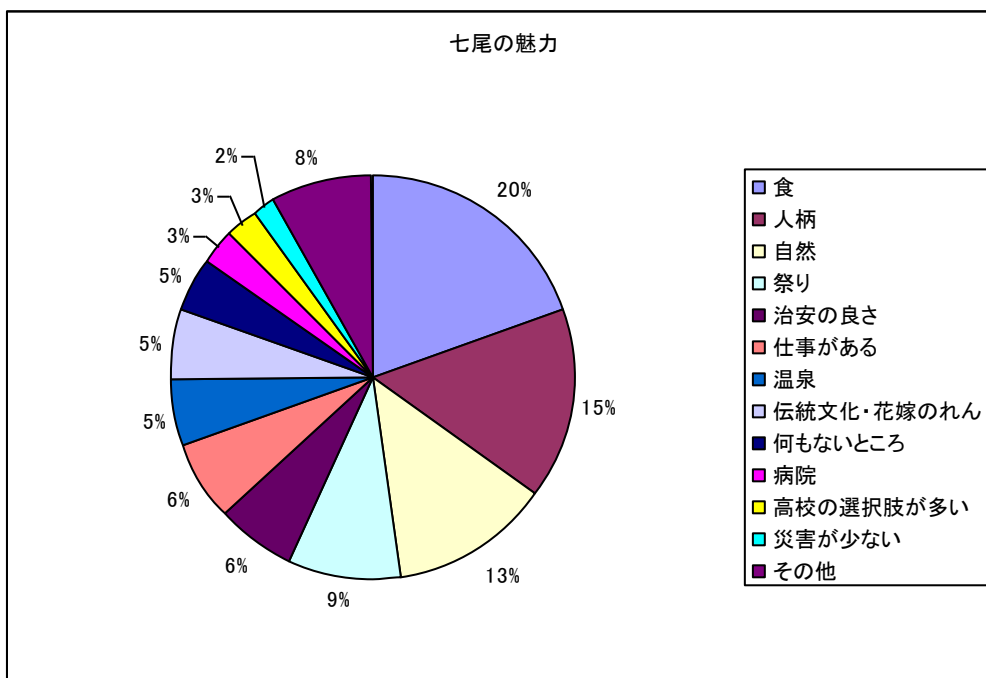
日本は18位の54であることから考えると、この会には、日常生活に不平不満を抱いている人ではなく、現在も相当程度幸福であって、なおかつその上を目指したいという思いを持った人々が多く集ったと考えられるので、以下の結果は、そのような意識背景があることを念頭に考察するのが妥当である。

2. 七尾の魅力とは？

参加者へのアンケートによる「七尾の魅力」は下図のとおりである。



一方、当日グループワークで提案された「七尾の魅力」は下図の通りである。



両者の回答に若干のばらつきはあるものの、総じて「食・自然・祭り・人柄」が上位を

占め、次に「温泉・伝統文化」が次いた位置にある点に、変わりはない。これらは、いずれも七尾が立地している土地柄・環境に関するものを中心に、それから育まれた歴史・風土に関する評価が高いと考えられる。

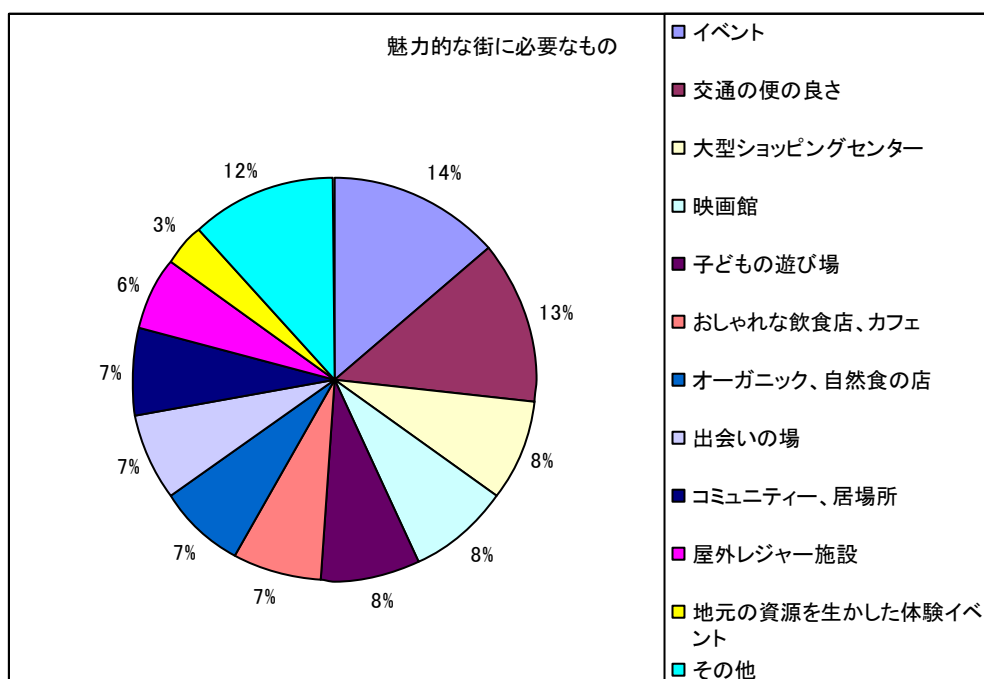
回答数を絞ったアンケートには現れなかったが、議論の中では「治安の良さ・仕事の機会・病院の充実度・高校の選択肢の多さ」など「現代社会的な都市機能」に対しても一定の評価がなされていることがわかる。

【七尾の魅力】
 = [歴史風土] 食・自然・祭り伝統・人 > [都市機能] 職・病院・高校

3. 目指すべき都市像

3-1. 街づくりビジョンの方向性

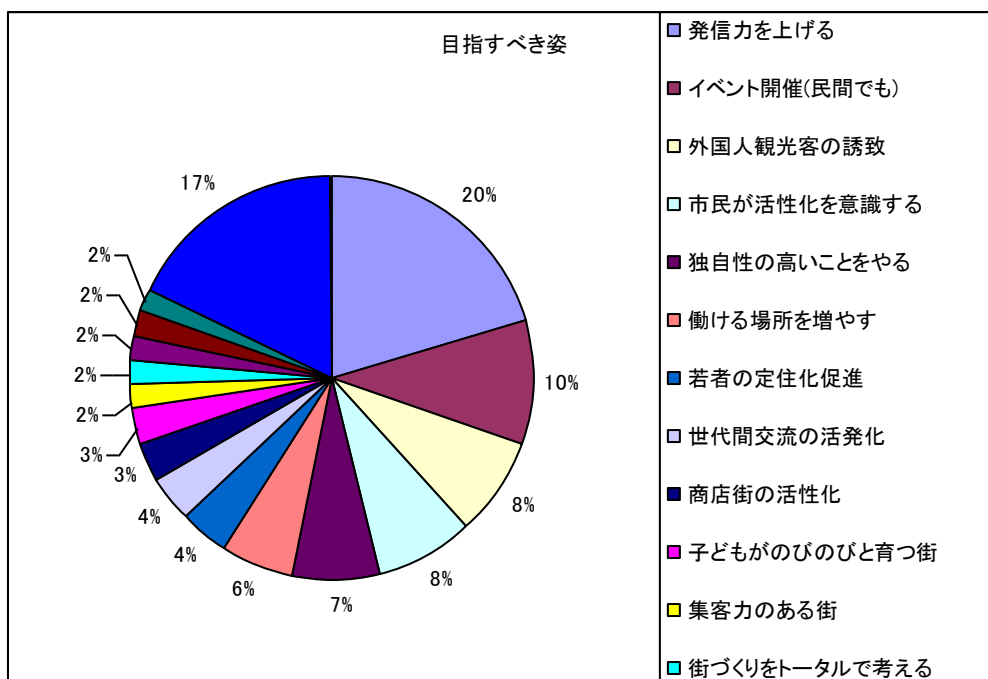
当日グループワークで議論された魅力的で暮らしやすい街づくりに必要なものは、下図の通りである。



これを見ると、「交通の便」「大型SC」「映画館」「おしゃれな飲食店・カフェ」など『都市機能系』、「子どもの遊び場」「出会いの場」「コミュニティ・居場所」など『コミュニティ機能系』、「オーガニック・自然食の店」「屋外レジャー施設」「地元の資源を活かした体験イベント」など『地域資源活用系』の回答に大きく分類できると考えられる。

これは、いわば一般的に魅力的だと思われる、目指すべき都市像について議論されたものである。

この後、前項で示した七尾の魅力について考えたのち、それを活かした街づくりについて尋ねたアンケートの結果は下図の通りである。



両者の比較から、一般的に目指すべき都市像としては、住民の暮らしに直結するレジャー・消費生活系の「都市機能」の拡充を図りつつ、住民相互の「コミュニティ機能」をサポートし、その延長線上も含めた「地域資源活用」を進めるべきという議論がなされたが、アンケートから、七尾市が目指すべき都市像としては、「意識啓発」をしつつ、外向きにアピールする「街づくり・開発系」の活動を展開しながら、同時に職・定住・子育てといった「生活環境」の拡充を図るべきと考えられているということがわかった。

すなわち、七尾市の目指すべき街づくりの方向性という意味では、住民にとっての暮らしやすさに直結する「都市機能・生活環境・コミュニティ機能の拡充」よりも、「意識啓発」「魅力発信・告知・広報」をベースにしなが、対外的にアピールし地域経済を活性化させる「街づくり・都市開発・地域資源活用」を優先させるべきだという意識が、今回の議論の根底に流れていたと考えられる。

つまり今回は、より便利な都市よりも、今ある良さを上手く売りにして活性化する都市を目指すべきだと考える参加者が多かったということであろう。

価値観が多様化している今日、街のあるべき姿が一回の議論で収束することは考えにくい。そのため、参加者が変われば、優先順位やバランスが変わってくると考えられる。よって、

今後も引き続きこのような場を設け、息の永い議論とその積み重ねによって「街のあるべき姿：都市ビジョン」が描き出されることを目指す必要がある。

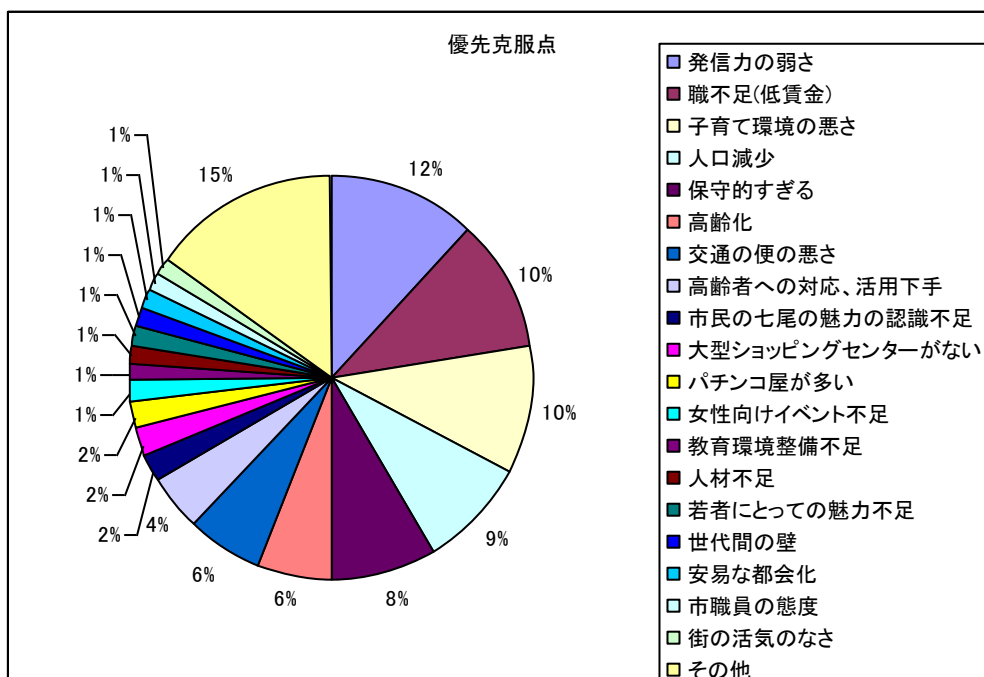
【目指すべき都市像】

- ・「意識啓発」「魅力発信・告知・広報」をベースに
- ・地域経済を活性化させる「街づくり・都市開発・地域資源活用」方策と
- ・住民にとっての暮らしやすさに直結する「都市機能・生活環境・コミュニティ機能の拡充」

の二つの流れのバランス・優先順位をどのように採るか、が議論の根底

3-2. 都市像を目指すために

また、目指すべき都市像にいたるために、優先的に克服すべき点は、アンケートによると下図の通りである。

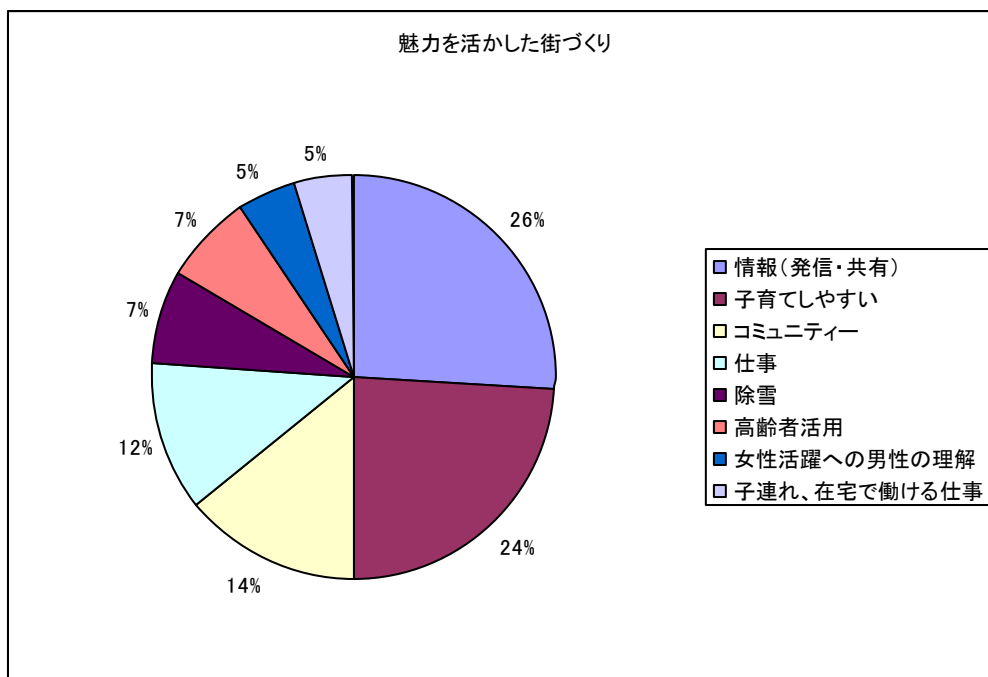


上るべき山頂が決まったとして、そこへ至るルートとしてどの登山道を選択するか、他選択肢が多くなると、意見が分かれるのもまた必然である。このアンケート結果でも同様の事象が起きているが、前章で整理したように「地域経済」「都市機能」「生活環境」「意識啓発」に大きく分類できることに変わりはない。

従って、目指すべき都市像が多くの議論・活動の展開を経て、明確になるに伴いそこへ

至る方法論も自ずから収斂していくものと考えられる。

また、当日グループワークで提案された「魅力を活かした街づくり」は下図の通りである。



何よりも街の魅力を的確にアピールする「情報発信」が重要かつ優先的であるという結果は、尤もである。次に「子育て環境」「コミュニティ」「職・子連れや在宅で働ける職」「除雪(対災害)」が上げられているのは、「まず地域住民が肌感覚で生活環境の良さを実感・認識できないと街の魅力発信につながらない」という考え方が根底に流れていると考えられる。

一方で、「高齢者の活用」と「女性活躍への男性の理解」が挙げられている点は、世代間協力・性間協働の重要性が指摘されており、一般的な街づくりへの意識啓発とともに、新しい時代を切り拓くために欠かせない視点であると考えられる。

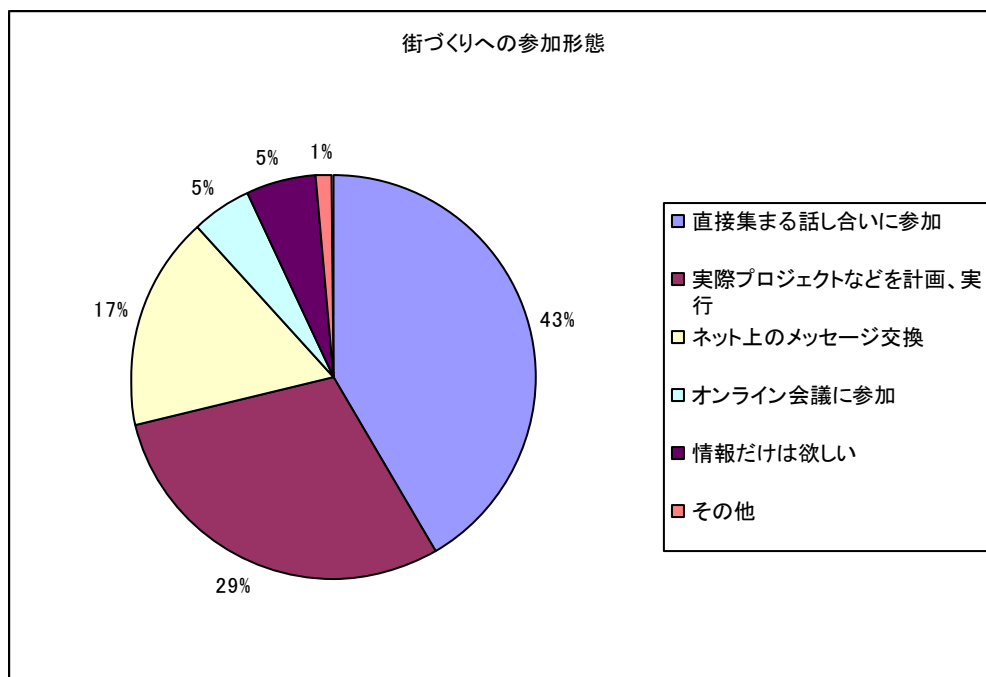
【都市像へのアプローチの方向性】

「地域経済・都市機能・生活環境・意識啓発」のバランス・優先順位づけには「地域住民が肌感覚で生活環境の良さを実感・認識できないと街の魅力発信につながらない」と考えられている
並行して「高齢者の活用」と「女性活躍への男性の理解」も指摘された

4. 今後の展望

4-1. 次回以降の参加希望形態

アンケートによる次回以降の参加に対する希望は、下図のとおりである。



今回同様、直接的な会合がトップであり、次に実際的なプロジェクトの計画・実施が上げられている点、直接対話を重視し、行動的・実践的であることが見逃せない。

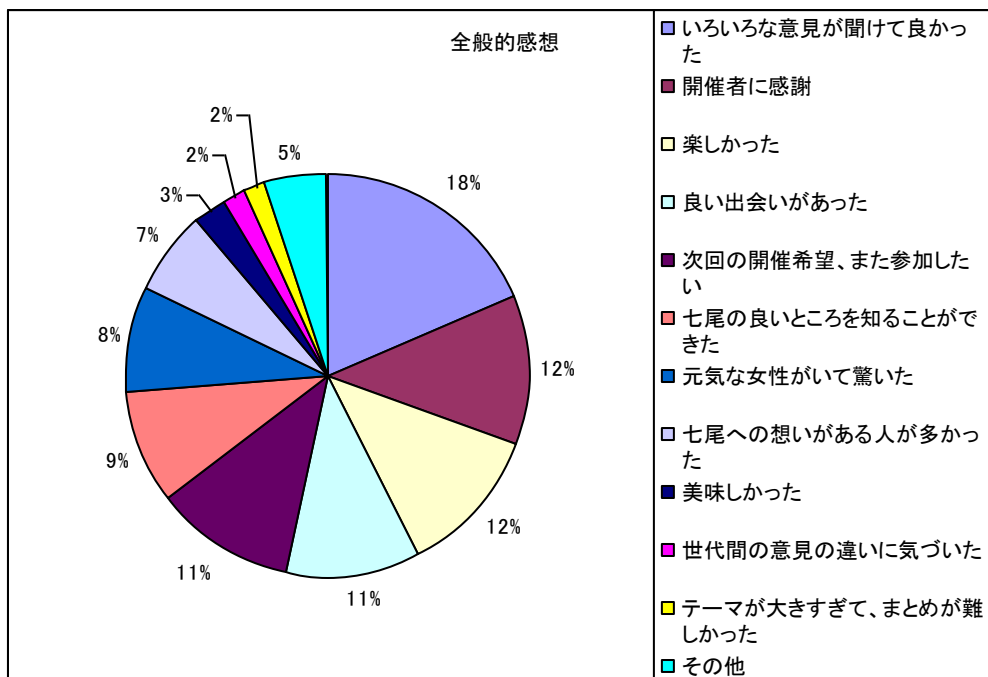
次に、SNSなどをICTを駆使して時間・場所の制約を少しでも軽くしたコミュニケーション形態への参加希望も少なくない。子育て中・介護中など生活シーンでの制約が多いが、街づくりへの参加意識も高い方にとって、これらの方法での参加・参画の門戸を開いておくことは重要である。

【今後の開催】

今回同様、直接対話形式で開催を継続するが、参加が難しい方のためにICTを活用した参加形態にも門戸を開く
具体的なプロジェクトの計画・実施も並行して検討する

4-2. 全体的感想

アンケートによる今回の100人女子会に対する全体的な感想は、下図のとおりである。



全体的に非常に好意的であり、評価する回答が大多数を占めている。この雰囲気を継続しつつ、次回以降も開催を継続する必要があると考えられる。

5. まとめ

消滅可能性都市と指摘されている七尾市ではあるが、七尾が好きで、その状況をなんとかしたいという想いを抱いている女性が、自分以外に大勢いることを知り、それぞれの参加者自身が驚くとともに、これだけいれば、何かできるかもしれないという希望が持てた会であったと思う。参加者同士の、当日はもちろん、その後のSNSなどでのつながりの拡がり方を見ても、今後の七尾市の活性化の力になる一つの新しいコミュニティの核ができたようにも思われる。

この流れを活かし、早急に今後の開催計画を立てるとともに、街づくりのビジョンをより明確にし、具体的なプロジェクトなども実施できる会へと成長させるためには、さらに多くの方の参加、理解、支援を得るための活動が引き続き必要であると考えられる。